

2023 年春季 ウォータールー大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで記載されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

午前に1コマ午後に1コマの1日2コマ。授業はすべてで3種類あり、1コマ週3で受けた。1コマ110分のため、途中で10分休憩をくれる先生もいた。授業には、ペア・グループワーク、個人作業、ライティング、教科書ワーク、リスニング、プレゼンテーションなどがあつた。いつの授業でいろいろなことができるため、飽きることがなかった。

授業は week ごとにする事分かれており、自分の点数はパーセントで表示されます。リーディングは最終のプレゼンテーションに向けて調査や調べをします。ライティングは様々なジャンルの文を書きます。スピーキングの宿題は、動画提出をし、普段の授業では発音練習やディスカッションをします。

授業は3つに分かれていた(ライティング、コミュニケーション、リーディング&リスニング)一回110分の授業で10分休憩を取る先生とそのまま通して110分授業する先生と授業形態は色々だった。ほとんどがグループワークやペアワークの形で授業をした。答える時もグループ単位で当てられることが多かった。

エッセイ、ディスカッション、プレゼンテーションを進めるための説明を聞いて実践する。

基本的に少人数のグループワークが多くライティングは1人ですることはありましたが他のクラスは他の学生と英語で話す機会が多く良いと思えました。ライティングの授業は文法の勉強をしつつ定期的のエッセイを自分で書いてフィードバックをもらうという進め方でした。リーディングの授業は自分で決めたトピックでプレゼンをするために授業内でアンケートをとったりして情報を集めていくことがメインでした。スピーキングはグループワークが多ディスカッションやプレゼンをしたりしました。

全ての授業において、グループワークが多かった。

レベル別に分かれたあと、3種類の授業をメインに進んでいった。コミュニケーションの授業では特に所謂参加型の授業形式で、英語を口に出して使うことが多かった。

1コマ1時間50分で、Speaking・Listening・Writingの3つのクラスがあり、1日2コマ午前と午後授業を受けた。文法など基礎を学ぶ時間もあつたが、授業の進み具合は早く感じた。

基本的にどの授業もグループワークや、ディスカッション、プレゼンテーションがありました。自分自身が意見を述べたり、授業内で発言する機会がとても多いです。特にプレゼンテーションは定期的であり、1週間ほどの間、準備期間があり、その後発表ということが多かったです。

授業は一日2コマで、毎週金曜日の2コマ目はワークショップで、効果的なプレゼンテーションの仕方やエクセルの使い方などを英語で学んだ。コミュニケーションの授業では、グループワークでミニプレゼンテーションやディスカッションの練習をし、最後に自分の興味のあることについて10分程度のプレゼンテーションをした。ライティングの授業では、文章の組み立てからしっかり学び、書き、フィードバックをもらい、わからなかった単語などを調べたりライトするというのを繰り返し、とにかくたくさん書く練習をした。

どの授業もグループに分かれて活動することが多かった。まだ、先生が一方向的に喋ることはほとんどなく常に生徒に質問を投げかけてくる感じだったので、積極的に発言できるチャンスはたくさんあつた。

少人数のクラスでとにかくグループワークやディスカッション、プレゼンテーションが多く、英語を話す機会が必然的に多かったです。課題は難しいものが多く、量も多かったです。

グループワークやペアワークが多く、主に Word 文書などを用いて授業を受けていました。ライティングのクラスでは途中で10分の休憩が

ありました。また、ポートフォリオを用いたり、各自で出来る復習のためのクイズがあったりライティングについて学べる機会がたくさんありました。コミュニケーションのクラスではグループワークがほとんどで、課題の提出も録画をして提出するものが多かったです。また最後の課題では10分間プレゼンテーションの発表がありました。リーディング・リスニングのクラスでもペアワークやプレゼンテーションが多く、時々教科書を使っていました。

スピーキング、リスニング、ライティングの3つの授業がありました。どれもグルーptークが多かったです。ライティングの授業はエッセイをほとんど毎回書きました

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

プログラム内で200クラスと300/400クラスに分かれており、上の300/400には日本人が2人だけで、他は基本的な英語は完ぺきな人たちが集まっていた。下の200は大半が日本人で韓国人も多かった。他は中国・ブラジル・ドイツ・コロンビアなど様々だった。全体的にみると日本人とその他留学生で1:1くらいの比率。

クラスの人数は20人で日本人12人、韓国人3人、コロンビア人2人、ブラジル人1人です。

全員で20人のクラスで日本人14人、韓国人3人、コロンビア人2人、ブラジル人1人

20人のクラスで日本人14人、韓国人3人、コロンビア人2人、ブラジル人1人

クラスの人数は22人くらいでほとんどが日本人でした。あとは韓国人が3人とブラジルやポルトガルの人もありました。自分は一番下のクラスだったので日本人が多かったですが、もうひとつ上のクラスは外国の生徒が多かったです。

13人日本人、3人韓国人、2人コロンビア人、1人ブラジル人。

約20人のクラスで7割日本人、2割韓国人、コロンビア、ブラジルから数名。

クラスの人数は約20人で、韓国人3人、コロンビア人2人、ブラジル人1人でそれ以外は日本人だった。

クラスは20人ほどの少人数クラスで授業を受けていました。日本人が6.7割で韓国人やコロンビア、ブラジルなどからの生徒がいました。

クラス人数21人の中に、韓国人・ブラジル人・コロンビア人・ドイツ人・中国人など様々な国の生徒がいた。

クラス合計14人。日本人は私含めて2人だけで、他はブラジル、パキスタン、ドイツ、中国、韓国、コロンビア、スーダン、サウジアラビア出身の人がいた。

クラスが2クラスに分かれていて、上のクラスは日本人が2人でそれ以外の国の人が12人でした。下のクラスは7割くらいが日本人でした。留学生の出身国はパキスタン、ブラジル、バーレーン、韓国、中国、ドイツ、アラブ首長国連邦、コロンビアなど色々な国から来ていました。

クラスは20人いて、7:3の比率で日本人が14人いました。他には韓国、コロンビア、ブラジル出身の方がいました。

私のクラスは15人で半分が日本人で他の国は韓国、コロンビア、スペインからの人達と勉強しました。

クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

うちのクラスは、外大の授業と雰囲気が似ていた。授業内容はほぼ外大と一緒にあったため、1年間の復習といった感じ。でも、日本とは違って、自分の意見を持ち共有することが必要なため、生徒の発言が大事にされている雰囲気があった。

日本の場合意見するときは挙手してから発言するが、カナダで受けたクラスは先生の質問に対してそのまま答える形で先生との会話に飛び込むことが必要だった。

自主的に発言する

日本の授業と比べて発言する機会が多く少人数なので発言しやすい環境でした。先生の話聞くだけの時間はあまりなかったと思うので授業を皆で一緒にやっている感じが良かったと思います。

先生がとても面白く、雑談をたくさんしてくれた。また、授業中にみんなでゲームをすることがたくさんあった。

1 番大きな違いは年齢がバラバラなこと。外大では全員ほぼ同じ世代だが、留学先大学の授業では子どもがいる人や、その子どもが自分たちとほぼ同じ年齢の人もいた。

他国の留学生は授業中発言する回数が多かったように感じたが、全体的に静かだった。お互い分からないところは助け合ったりして、雰囲気はとても良かった。

クラスの雰囲気はとても明るいものでした。先生たちは明るく盛り上げてくれます。日本ではないような楽しめるゲームを交えての授業で、実際にお菓子や景品を用意してくれていることもありました。

初めは少し静かなクラスでしたが、話すことに自身がついてきたら、積極的に発言する人が増えていって、にぎやかな授業になった。

みんなすごく積極的で発言が早い。分からないことは躊躇わずに質問していた。先生もフレンドリーで喋りやすかった。

グループワークなどが多いのでクラスメイトと仲良くなりやすく、お互いプレゼンテーションの時など良い緊張感でできる点です。さらに課題などの提出期限などを教員に交渉すると考慮してくれる点です。

クラスのほとんどが日本人ということもあり、雰囲気にはあまり変わりはありませんでしたが、他国出身の方は積極的に意見を言っていた印象があります。

少人数制だったのでみんながとても仲良く自分の意見が言いやすい雰囲気でした。日本は教授の話を聞くだけの授業が多いですがカナダではグループトークをする機会が多かったです

授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。

最後のプレゼンテーションはかなり大変だったがその分達成感もすごかった。日本語でさえうまく行えないプレゼンテーションを英語で用意し英語でやり切ったことは、自分の力になったと実感している。

ダイエットの方法について軽く発表する機会があり、様々なダイエットを知ることができた方が印象にあります。

コミュニケーションの授業で2つのものを組み合わせて新しい製品を考えてそのCMを作成する授業がとても楽しかった。

広告、トロッコ問題のようなもの

最近の仕事に対する考え方です。最近の人たちは昔より忙しくなったと感じている傾向にあるらしいですが、実際は昔より労働時間が少なくなっているらしいです。忙しく感じる理由として、テクノロジーが進んだためレスポンスを早くしないといけなくなったことや、男女関係なく仕事も家事もするようになったことが挙げられます。そういった仕事に関することを授業でやったことは印象に残っています。

約10分間のプレゼンテーションを1人でしたこと。(2回)

英語の発音について。各言語を話す生徒がそれぞれ苦手な発音がありその違いが興味深かった。

自分でテーマを決めて、ディスカッションする授業が一番印象的だった。それぞれグループに分かれて、自分のお題でディスカッションする時は、司会をして質問を考えたり、会話を回すのが難しく感じた。

私が印象に残っているのは、仕事と休暇どちらを優先して大切にするかというトピックです。このトピックは何度もグループワークで考え、沢山のクラスメイトからの意見を得ました。ここでも日本と他の国の価値観の違いが大きく表れていて、とても興味深かったです。

広告について。至るところに見られる広告はそれぞれどのような意味があり、どのような効果をもたらしているかなど。

私たちのクラスは一学期間を通して、UHIをテーマにライディングをした。

印象に残っているのはAPAを用いて自分で論文を書いたことです。

10分間のプレゼンテーションです。自分の興味のあるトピックを選び、そのトピックについてクラスの前で発表しました。プレゼンテーションの進め方や構造、話し方やパワーポイントの使い方などたくさんのスキルを学べる機会と、これまでに学んできた英語力も試されるので一番大変だった印象です。しかしこの経験を通して、自分の英語力に自信を持てるようになりました。

広告に関するトピックが一番印象に残っています。いろんな面白い広告の仕方がありとても面白かったので印象に残っています。

授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

あまりに頼らないよう先生のおっしゃる事を理解できるよう心得ていました。

あらかじめその日にする授業を予習したり、授業中は積極的にグループディスカッションに参加したりするようにした。宿題がほぼ毎日出るののためないようにできるだけその日のうちにするようにした。

グループ活動で日本人同士になっても、積極的に英語だけで会話を進めること。

なるべく授業中は分からない単語などは調べないようにしていました。分からなかったことはメモして授業後に先生に聞いたり自分で調べたりしていました。授業中に調べるとその間に授業が進んで聞き逃したりするので授業で今話していることを優先するようにしていました。あとは、できるだけ発言することです。

自分が話した英語を理解してもらうにはイントネーションが非常に大切で、動画を見ながらシャドーイングをたくさんした。

会話、ディスカッション式の授業ではどうしても性格や英語力によってなかなか参加しづらい人がいたのでその人たちも参加できるように気を配った。

授業で分からない単語に出会った際は、メモしてその日中に調べるようにしていた。

その日に出された課題や復習は、学校の図書館や家でしていました。予習までは必要ではないですが、復習はやっておくことで次の授業の理解度が上がると感じました。その日に学習したトピックやセンテンスから自分の分からなかった単語をメモして復習することもしていました。そうすることでどんどん自分の中の単語量を増やせるようにしていました。

ライティングでもらったフィードバックは必ず細かいところまで先生に聞き、次のリライトに活かしていた。どのように書くべきか分からない表現は必ずどのような表現を使うべきか聞き、とにかくわからないことを減らして自信をつけていった。

みんなの前で発言する勇気はなくて消極的になりがちだったので、グループワークでできるだけ発言するようにした。

課題を授業前に完了するのはもちろんなのですが、特に工夫した点は特定分野の英単語を勉強したこと。これをするとしなないでは授業の理解度が大きく変わります。

分からないことがあれば、すぐに先生や友達に聞くことです。授業の進め方が早いので、理解しないままだと、授業についていけなくなるので、すぐその場で解決させることを心掛けていました。

わからないことは教授に聞くということです。日本では友達に聞いたり、曖昧なまま理解してたりしていましたが、カナダではより理解するためにわからないことは教授に直接聞くようにしていました。

2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの国の人でしたか。
0人	-
1人	韓国
2人	香港(留学に来ていた高校生2名)

通学手段	通学時間	主に食事はどこでとっていましたか。
バス	15-30分	ホームステイ先
バス	30-45分	ホームステイ先
電車	45-60分	ホームステイ先

部屋に用意してあったものは何ですか。	自分で用意したものは何ですか。
テーブル、鏡、ベッド、クローゼット、ハンガー、ドライヤー、タオル類、ティッシュ	服、洗面用具、ヘアアイロン
ベッド、棚、ライト、タコ線、鏡、ハンガー。前の家はシャンプー用品、机、ベッド、鏡。	化粧水や化粧品、ドライヤー。
ベッド、クローゼット、鏡、勉強机、収納棚、テーブル、バスタオル、タオル	シャンプーやコンディショナーなどの日用品
ベッド、机、デスクライト、洗濯籠、ハンガー、ボディソープ、延長コード、追加の掛布団	スキンケア類、充電コード、タオル類、スリッパなど
ベッド、机と椅子、照明、ハンガー	日用品は大体自分で揃えました。
ベッド、机、テーブルライト、ハンガー、鏡、タオル。	生活用品、洗面用具
タオル大中小計7枚、ハンガー大量、空の棚、机、椅子、卓上ライント	室内用スリッパ、ズボン用ハンガー
ベッド・棚	シャンプー・リンス、洗顔用具、タオル類
自分の部屋にはベッド、クローゼット、机がありました。私の場合、他の留学生と暮らしていなかったため、地下一階の部分は全て1人で使うことができました。洗面台にもトイレもシャワールームにも必要最低限の物はあります。シャンプー、リンス、ボディソープ、バスタオルやドライヤーもありましたし、現地で買うこともできるので日本から持ってくる必要はありませんが、バスグッズは日本のものにこだわる人は持っていった方がいいのかなと感じました。	私はヘアアイロンや爪切り、綿棒などは日本から持参しました。
勉強机、ベッド、タンス、洋服ラックなど	スキンケア用品、服、
ハンガー、ドライヤー、ティッシュ、テレビ、タオル、シャンプー、ボディソープ、リンス	延長コンセント、タオル、下着類
ハンガー、タンス、勉強机、椅子	シャンプー、リンス、歯ブラシ、歯磨き粉、洗顔料、化粧水
ハンガー、机、ベッド、タンスがありました。タオルもありましたが私は自分で持参したものを使用しました。	シャンプー、リンス、ボディソープ、タオルなどは自分で用意しました。

ホームステイ生活をする上で、日本と違って戸惑ったこと、驚いたこと。
お風呂・洗面台・トイレがすべて同じ部屋、夜は基本危ないため家に早めに帰る、食事のレパートリーが少ない
シャワーの使い方が初めわからず戸惑いました。
洗濯が週に一回で干さず、乾燥機を使用すること。
シャワーヘッドが固定されている。
ご飯のカルチャーショックはありましたが、だんだん慣れました。
お風呂の使用時間が決まっていた。洗濯は週末の1度きりだった。
食事前毎回キリスト教のお祈りがあった
食事マナー、洗濯の頻度はおどろきました。食事マナーは日本とは異なることが多いです。また、洗濯をするのは1週間に1回です。毎日

の洗濯物を1週間溜めておくというのは初めての経験だったので、落ち着かなかったりしました。

バスタブがあるのに浸かる習慣がないこと、使っている部屋はドアを閉め、使っていない部屋はドアを開けておくこと、地下にも部屋があること、バスは遅延もするが早発することがあること

食生活が明らかに違った。お風呂もシャワーだけ。トイレはウォシュレットがついてない。

洗濯が週に1、2回しかできないこと。お風呂のお湯が溜められない。

ホームステイを快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。

自分の気持ちを隠すことなくホストに伝えるよう心掛けていると、気を使うことなく暮らせる。自由時間や休日によりホストと一緒に時間を過ごせなくても、ご飯は一緒に食べたほうがいい。

分からない事はすぐに家族に確認する。思っているよりも寒いので暖かい服装を用意する。

最初は何をするにしても一度ファミリーに確認をしてから使う。家にいないときはどこにいるか、いつ帰るのかなどをこまめに連絡する。

初日にハウスルールや使っているものなどを聞いておく

洗濯ネットは必須だと思いました。あとは日本食を少し持っていくと気持ち的に少し安心感があります。爪切りと体温計も持って行った方が良いでしょう。

思ったことは隠さず、ちゃんと伝える。Yes/Noをはっきり言う（意思表示をはっきり行う）。

口に出さないとお互い分かり合えないので、いいことも嫌なことも必ず口に出して伝えるようにしましょう。

シャワーは何時まで浴びるなど、時間のルールを先に聞いておく。

ホームステイであれば、ホストファミリーに家のルールを初めにしっかり聞いておくことが大切です。どんな些細なことでも日本とは違うことが多かったりします。「普通～だから聞かなくてもいい」という考えが意外とあとから違うことに気付かされたりもするかもしれないので、その家でのルールを把握しておけばトラブルも起きませんし、お互いが快適に気持ちよく過ごすことができると思います。

変にホストファミリーにも友達にも気を使いすぎない。苦手なものは苦手とはっきり言う。部屋にこもらず積極的にリビングに出てその日あったことなどを話す。

私は課題のために部屋に籠るときなども常にドアを少し開けておいてホストファミリーが話しかけに来やすいようにしていた。困ったことがあったらなんでもすぐに質問するのが早い。

文化の違いを受け入れて、積極的にホストファミリーとコミュニケーションをとること。滞在したご家庭は、ルールが少なく、比較的自由だったので、夜遅くに帰ることになる場合など連絡していました。家族とのコミュニケーションや連絡を常に取っていれば、自分のペースで快適に過ごせます。

好き嫌いは正直に伝えることだと思います。私のホストマザーは毎回家にくる学生がバナナを好きだったこともあり、今回も大量のバナナを用意して下さっていました。しかし、私はバナナが好きではないので初日にそのことを伝えました。もちろん申し訳ないと感じましたが、食べ物は毎日食べるものなのでストレスになるものだと思います。

パソコンは持参しましたか	携帯電話	インターネットは部屋から接続可能でしたか。	その際に費用はかかりましたか。
はい	日本からSIMカードを持参	LANケーブル/ワイヤレス共に可能	いいえ
はい	日本の携帯をそのまま持参	LANケーブル/ワイヤレス共に可能	いいえ

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア/サークルなど。

私の大学は多くのイベントを行っていたため、毎週何かしらのイベントに参加していた。校内で簡単に行うものもあればお金のかかるバストリップも多かったため、飽きることがなかった。そのため、週末は基本バストリップに参加するか自分たちでバスを使って遠出するなどしていた。ボランティアの数も多く、私は日本語教師補助と学校イベント主催者のボランティアに参加していた。どちらもよい英語の勉強や創造力の構築になり、証明書も受け取った。

放課後イベントに沢山参加しました。休休みは日本語ボランティアやイベント作りの会議などに参加していました。

conversation partner program:同年代の現地の学生と話せる機会が授業では習わないことや文化などを教えてもらえる。

語学学校のプログラム主催のイベントにほぼ毎日参加する。

大学が用意してくれていたバスツアーはとても良かったです。トロントやナイアガラの滝にも連れて行ってくれました。ボランティアは日本語の授業に参加するボランティアと自分たちで1つ学校のイベントを企画するボランティアに参加しました。2つとも良い経験になったと思います。

イベントがほぼ毎日あった。参加するにはお金を払う必要なイベントもある。

ジム、スケート、野球観戦、日本語の授業のボランティア、

大学主催のイベント参加、日本語教室のボランティア、スピーキングパートナーとの外出

自由時間は大学主催のイベントなどに参加していました。ほぼ毎日何かのイベントがあり、授業が終われば、それに参加して家に帰宅という流れが多かったです。イベントでは他プログラムの学生とも交流を深められるので、とても貴重で楽しい時間でした。

日本語授業のボランティア、サークルの参加、放課後・休日のイベント

毎週土曜日は学校主催のイベントに行っていた。日曜日は課題をするために1日家にいることが多かった。

大学が主催しているイベントには積極的に参加しました。授業以外で現地の大学生と交流できるチャンスなので人脈づくりにも役に立ちました。また、ナイアガラの滝やトロントバストリップなど週末には大きなイベントがあるので色々な観光名所を訪れることができました。また、1対1で週に1、2回大学生と交流できるコンパニオンパートナーというプログラムにも参加しました。長い間住んでいるので、オススメのお店を教えてくれたり、ドライブに連れて行ってくれたり、充実した時間を一緒に過ごせました。

土曜日と日曜日と金曜日の夜は大学のイベントに参加することが多かった。特に、ナイアガラの滝は自分で行くのは難しいところだったので大学が連れて行って下さって良かったです。また、ボランティア活動もしました。火曜日と木曜日の休休みの時間帯に日本語授業に日本語ボランティアとして参加させていただきました。

学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など

自由時間は基本大学のカフェテリアで過ごしていた。ボードゲームやカードゲームが多く、夕方になると寮の外国人たちが夕食を食べに来るため、その人たちと話して過ごすことが多かった。学校付近にプラザという飲食店街があり、夜ご飯を友達と食べることも多かった。

よく近くのコネストガモールに行っていました。ご飯やカフェは近くの plaza に行ったり一駅先の uptown に行ったりしました。

大学近くのレストランがいっぱい集まっている場所、アップタウン（大学から2駅）、マーケット、スーパー（Walmart, dollama）

毎日2〜3時間課題に取り組む。現地の大学生や、他の留学生とカードゲーム、ボードゲーム、ビリヤードをしたり、レストランや買い物に行ったりして楽しむ。

学校から電車一本で行けるショッピングモールや、学校の近くのアジア系のスーパーはよく利用していました。あと、学内にあるジムに契約していたのでよく利用していました。

学校近辺の PLAZA と呼ばれるところをよく利用した。コンビニやレストランがたくさんある。

リムパーク(スケートリンク)、アップタウン、w ストア

ホームステイの近くのショッピングモールをよく利用した。

学校周辺にはレストランやカフェが沢山あったので、放課後友達と行ったりしていました。学内にはいろんな国のレストランがあるので、食文化を体験するにはとてもいいです。あとは Tim Hortons は毎日のように利用しました。

TimHortons、コネストガモール

ティムホートンはカナダ発祥のコーヒー店でどこにでもあるので一度行くといいと思う。放課後はよくカフェテリアで課題をしたりおしゃべりしてた。

学校のカフェテリアでよく放課後に課題をしていました。ティムホートンというコーヒーチェーン店は値段がお手頃でよく行っていました。

学内では TimHortons やコンビニをよく利用しました。そこで飲み物を買ってフードコートでよく勉強しました。また、大学の前にあるレストラン街はよく友達と利用しました。

3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備

語彙を増やしておかないと現地であまり人と話せないと思い、単語の復習だけは行っていた。他は洋画を見て耳を英語に慣れさせる程度であまり特別なことは行っていなかった。

単語を覚える、洋画を見る。

SNS で他の留学生の過ごし方を見てイメージをする。

英語の映画を見たりしてリスニングをやっていました。その他はとくにやってなかったです。

日常会話のビデオをたくさん見た。

留学先の文化や気候についてよく調べた。

留学前に取り組んだことは日常会話英語の練習です。日常会話で使う英単語やフレーズ、言い回しを勉強していました。学習としての英単語よりも日常英単語の方が使うと考えていたので、フレーズや単語は沢山覚えてから行きました。

よく使う表現などを学んでいった。

Netflix でひたすら洋画を見ました。日常会話集の本を事前に読んでおいた。

大学の情報や現地の気温などの情報収集。

日常生活の中で使いそうなフレーズや単語などを主に勉強しました。

留学前にしておけばよかったと思う準備

もっと文法なども見直しておけば、最初のクラス分けテストでよい点数を残し、上のクラスに上がっていたと思う。

英語の単語勉強

リスニングの練習

いろんな国の場所や公用語、有名なものなど知識を広げておく

もう少し単語の勉強をしておいた方が良かったと思います

リスニングの練習

英語の単語をもっと覚えておけばよかった。

できればリスニングは中心的にやっておくとよかったなと感じています。現地では初め、圧倒的に聞き取ることが難しかったです。聞き取ることができなければ、話すこともできないので日本で洋画を見たりしてリスニング力を高めておいたらスムーズかと思います。

関西外大の1年生の時のライティングの授業は役に立つので、復習しとけばよかったと後悔した。

英単語の学習

日本についてもっと知っておくべきだったと思っています。特に、多くの人が日本のアニメのことが大好きでよく質問してくれたり、そのことについて話しかけたりしてくれました。しかし、私はアニメについて全く知らなかったのである程度知ってからカナダに行っていればより仲が深められたのではないかと思います。

日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの

友達が味噌汁を持参していて、日本食が恋しくなった時にすごく助かった。大きめのポストンバッグは旅行時にすごく役立った。

ヘアトリートメント ドライヤー

日本のお菓子（ブラックサンダー）、お箸

ポケモン用品、日焼け止め、スキンケア用品、

日本のお菓子は一緒に住んでいた韓国からの留学生に喜ばれました。

掃除用コロコロが非常に役立った。

5本指ソックス

日本の食べ物やお菓子はとても喜ばれました。ティーバッグや駄菓子などを持っていきました。

抹茶味のキットカット。

ハイチュウは特に子供に喜ばれたし、外国でも買えるけど高いので持っていくといいと思う。パソコン、タブレットは必須。

箸、折り紙

日本のお菓子や味噌汁、レンジでチンするお米は本当に持って行ってよかったです。お菓子は他の国人に渡してそれが話のネタになったりしたのでよかったです。味噌汁とお米は日本のご飯が恋しくなる時があるのでその時に重宝しました。

日本から持っていく必要のなかったもの	日本から持参すればよかったと思ったもの
バスタオル	味噌汁、多めのカナダドル（円安のせいでクレカを使うとかなり高くなる）、楽な服
洗濯ネットはたくさんいらなかった。	特になし。
電子辞書	バックのお米（カナダの米は日本の米と全然違うため恋しくなった）
大量の服	汗拭きシート
留学前にやっていた資格のテキストを持っていきましたが勉強する余裕がなかったのでいらなかったです。	春から夏にかけての留学でカナダなのでそんなに暑くないと思っていたのですが半袖をもう少し持っていくべきでした。
シャンプー・ボディソープなどの日用品。カナダでも日本のものが売られている。	ポケットティッシュ
日本食	運動用の靴
洗剤、ハンガー	特になし。
ドライヤー、タオル、シャンプーなどのバスグッズ	少量の日本食
ドライヤー	日本食、夏服多めに
ハンガー、シャンプー、リンスなどの日用品	カップ麺や日本のお菓子
しおりにはパーティー用の服と靴がかいてありましたが使いませんでした。	サンダルは海に入る機会があったので持ってこればよかったと思いました。もちろん現地でも買えますが自分に合うサイズを見つけるのが難しいのと価格が高かったので持っていくべきでした。

4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。	日本円でいくぐらい準備しましたか。
\$200 (現金)、デビットカード、クレジットカード2枚	現金2万ほど、クレジットカード上限月10万×2、デビットカード上限月10万
現金6万円とクレジットカード2枚。	現金60,000円 クレジットカード上限10万円が2枚
クレジットカード、現金	クレジットカード上限10万を2枚、現金カナダドル3万円分、日本円7万円
クレジットカード2枚	40万
外大で紹介されたクレジットカードと300ドルくらい現金で持っていました。	クレジットカードが20万くらいと、現金が3万くらいでしたが足りなかったのでクレジットに5~10万くらい追加しました。
デビットカード、現金	デビットカード50万、現金10万
クレジットカード2枚、プリペイドカード2枚、現金5万円分	クレジットカード上限30万、10万、プリペイドカード合わせて2万、現金6万円
クレジットカード、デビットカード、現金	クレジットカード上限20万、デビットカード20万、現金5万
私は現金とクレジットカード一枚を用意しました。	現金5万、クレジットカード上限20万で用意しました。
クレジットカード3枚、現金2万円分	現金2万円
クレジットカード、デビットカード、現金400ドル	クレジットカード上限月10万、デビットカード4万
クレジットカード、デビットカード、現金	クレジットカード上限10万円、デビットカード上限50万円、現金6万円
クレジットカード二枚と現金を持っていきました。	デビットカードとクレジットカード上限20万と現金6万円も持っていきました。

現地で支払った住居費と食費を教えてください。

住居費は、事前に日本で支払いを行っていたため、現地では支払わなかった。食費は外食費として月3万ほど。

外食に月4万円ほど

友人との外食代、約7万

食費は、朝晩は家で食べたらず口、お昼はお弁当を持参した。たまに外食すると、レストランは基本2000円~5000円ほど

住居費は現地では払っていません。食費は6万円ぐらいかかったと思います。平日はほとんどホストファミリーが作ってくれた料理を食べていましたが、土日の昼は出先で食べるが多かったです

テキスト代と通学費はそれぞれいくぐらいかかりましたか。

テキスト代7000円ほど、通学費0円 (学生証が定期代わり)

テキスト代は日本円で9000円程です。

テキスト代は7000円、通学は定期のようなカードを大学からもらい、そのカードでバスと電車は乗り放題でした。

その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。

お土産や遊びに行ったときの食費など、学校のイベントに参加するための費用に20万は使いました。

月によってかなり違うが4~8万

旅行(10万)、野球観戦(6万)、アイスホッケー練習(3万)

旅行費は全部で7~8万、買い物では10万程かかりました。

旅行と買い物、お土産代、外食などで20万円くらい

旅行は10万以上かかったと思います。買い物は、お土産や日用品などを買って8万円くらい使ったと思います。

5. 学習面について

語学力・コミュニケーション能力の自己分析

文法やリーディング力にはいまだ自身も持つことができないが、コミュニケーション能力は確実に上がったと思う。毎日お昼と夕方の時間に現地の大学生と話し、彼らの会話について行くことで、英語で話すことへの自信がついた。授業を通して一番伸ばすことができたのはライティング力だと思う。毎週2ページほどの文章を書き続けることで、スピードや語彙力が上がり、英語を書くことへの苦手意識がなくなった。

会話で使う言葉や単語の使い方を学ぶことができた。また海外の友達と遊ぶ事で英語を使う機会が増え、頭の中に出てくる単語が増えた。

ライティング、リスニング、スピーキングが上達した。特にスピーキングはディスカッションやプレゼンテーションをたくさん行ったことで経験が増えて苦手意識がなくなった。

語学力として、英語は新しく得た知識よりも再認識と実際の生活の中での活用法を学んだ。

語学力に関しては、リスニングはかなり良くなったと思いますが、スピーキングは少し良くなったくらいです。

留学初期と比べて、スムーズに英語で自分の考えを伝えられるようになった。

英語をつかって人に話しかけることに対する抵抗感が無くなった。

沢山の人と交流があったので、コミュニケーション能力は上がったように感じた。

3ヶ月という短い期間でしたが、確実に語学力とコミュニケーション能力は身につきました。ライティングも、リスニングもスピーキングも成長できたと、とても感じています。現地の人と、だんだん自然とコミュニケーションが取れるようになったのでそれで実感しました。

人前で話すのが本当に嫌いだったけど、コミュニケーションの授業の中で何回も練習したり、即興でプレゼンテーションしたりしていたらいつの間にかあんまり緊張しなくなっていた。ライティングは、最初のクラス決めテストでは80語ほどしか書けなかったのに、最後のテストで210語くらいかけるようになっていて1番伸びた科目だと思う。リスニングも、まだ速さについていけない部分はもちろんあるけど、理解してすぐ答えられるようになった。

コミュニケーション力が1番伸びたと思う。

スピーキング力とリスニング力は特に成長できました。授業内でグループワークが多かったので、自然と英語を話す機会が増えたことや、普段ホストファミリーと一緒に住んでいるので、日常会話で使う英語を聞いて話せるようになりました。また、大学のプログラムを通して知り合った友達と一緒に過ごす時間を増やすことで、リスニング力とスピーキング力の向上につながりました。

語学力はリスニング力が一番成長したと思います。相手が伝えたいことをある程度理解することができ、スムーズに会話することができるようになったと思います。コミュニケーション能力については、留学前は自信がなかったですが、留学を通して自信をすこし持てるようになったと思います。

留学前の目標とその達成度

留学前にリスニング力を上げることを目標にしており、向上させることができたと思う。いまだにネイティブスピーカーの話す英語や字幕なしの洋画は自分にとって理解が難しいが、それでも留学に行く前よりは理解できるようになった。一番わかりやすい成長は、友達と英語で話す際に、聞き返す回数が減ったことだと思う。

積極性や日常会話が上達しました。それが私の目標と達成です。

目標：他国の友達を作る。英語でスムーズに会話ができるようになる。達成度：留学のおかげで本当にたくさんの友達ができ、様々な話題で盛り上がる事ができた。

目標は会話力を伸ばすことだったので、達成できたと思う。

英語を話すとき、今まであまり文法を気にせず話していたが、留学後は、かなり細かい文法を気にして話すようになった。

留学前の目標は現地の人とスムーズに会話をできるようになることでしたが、達成度としてはまだまだ努力が必要だと感じた。

留学前の目標は現地の人と問題なくコミュニケーションを取れるようになること、様々なことに挑戦して、異文化を吸収することでした。コミュニケーションの点で言うと、まだまだわからないことも多くありましたが、確実にスタートよりは達成したと実感しています。異文化の吸収に関しては、本当に短い期間でしたが、日本とは違った文化をたくさん見つけ、学ぶことができ、目標達成につながりました。

人前で自信をもって話せるようになるという目標を達成できた。

英語をちょっとでも上達するというのが留学前の目標だったが、これは達成できたと思う。英語がペラペラになった、という訳ではないが確実に力は伸びたと思う。

英語の発音を向上させることを目標にしていました。コミュニケーションのクラスを通して、またたくさん現地の友達やホストファミリーと話すことで以前より流ちょうに発音することが出来るようになりました。

留学前はスピーキング力の向上と積極性を身につけることです。私は聞き取ることはある程度得意でしたがそれを英語で自分の言葉で返すことが苦手でした。今回、英語をずっと使ってきたのである程度自分が伝えたいことが英語にできるようになったと感じています。

留学を通しての成長ポイント

一番の成長はコミュニケーション能力だ。性格上、日本にいてもあまり人と会話を続けることはなかったが、留学を通して、英語を使っても会話を続けたり広げたりすることができるようになった。最後は英語で話すことに楽しさを覚えるようになっていた。

日常会話が身についた。

人に自分の意見を伝える力。

語学力などの学術的な能力だけでなく、自分の考えや意思を持ち1度で伝わらなくてもどうにかして気持ちを伝えるという根性が成長した。

いろんな文化を経験して物事を客観的に見る事が出来るようになったのと、自立心も強くなりました。あと、いろいろな人と話して少し社交的になりました。

留学を通してたくさんを経験し、視野が広がった。

今まで聞き取れなかったことに対して苦笑いなどで逃げてしまっていたが聞き返して自分が理解できるように言い直してもらえるようになった。

人に合わせず、自分のやりたいことや自分の意思をはっきりと持つ力が身についたように感じた。

困難と出会っても逃げずに諦めず、解決に向けて向き合う力がついたと思います。初めはやはり、言語の壁や、環境変化によって、戸惑うことも多く、辛かったこともありましたが、しかし、どうすれば解決できるのか、どうすれば自分の成長につなげることができるのかを考え、自分なりに目標を立てて、行動に移していました。

授業の中で行った発音練習を家でも復習することで英語の発音が格段に良くなった。あんまり難しい英語を使わなくてもちゃんと相手に伝えることが分かったので、前までより緊張せずに会話できるようになった。

分からないことは勝手に対処せず人に聞くなど、いい意味で人に頼る力がついたと思う。

語学力とコミュニケーション能力の向上、また何事にも一人で挑戦できるチャレンジ精神が身につきました。語学力は授業を通してたくさんメモを取ったり、先生からのフィードバックをもらったりすることで自分に足りない部分や弱点を見つけ出し、それを改善させていくことで向上していきました。また、初めてスターバックスやレストランなどに行く機会があった時、注文の仕方や支払い方法など分からず不安だったけど、自分の英語が通じたときには自信を持って英語を話せるようになったし、この経験を通して一人でも対応できる能力が身につく、新しいことにどんどんチャレンジできるようになりました。

私は留学をとうして自分で考えて計画する力を身につけられたと思います。今回2回旅行に行きましたが、自分がほとんど調べて計画を立てました。今まで、誰かにしてもらうことが多くとても大変でしたが無事帰ってこれた楽しい旅にできたのでよかったです。

留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

留学前と留学初期はなぜ留学を選んだのか、日本にいたほうが楽だったなどと考えていたが、日がたつにつれカナダでの生活が楽しくなっていき、留学後の今はできるならカナダに帰りたいとも思えるほどになった。それほど英語を日常的に使うことが楽しかったし特別だった。留学に行く前は学校外では基本勉強などしたくなかったが、今は英語を忘れる前にできるだけ勉強し、さらに英語力を伸ばしていきたいと思っている。

留学前は3ヶ月頑張るしか思っていませんでしたが、帰る頃には自分の改善点が明確になりました。留学中は自分のできないもどかしさに悔しさを感じていました。

留学前より英語を学ぶ意欲が増した。他の言語やビジネス英語への興味も高まった。

留学前はがんばろうというよりも不安が大きかったが留学を通じて、もっとみんなが言っている英語を理解したい・私の思いを英語でうまく伝えたいという気持ちが大きくなった。

留学前が一番モチベーションは低かったと思います。留学中が一番高く、留学後は TOIEC の勉強をしようと思っています。

TOEIC で良い点数が取れるように、英語の勉強をもっと頑張ろうと思った。

モチベーションに変わりはないが自信がついて自分の苦手なことも気がついた。

留学前はモチベーションが低く授業についていけない不安が大きかった。実際、留学中周りのレベルが高く、自分の語学学習に対するモチベーションは上がった。留学を経てそれを継続できるよう頑張りたい。

一番モチベーションが高かったのは留学中です。毎日わからないことだらけで、毎日が濃密な学習時間でした。留学前ももちろん勉強していましたが、留学後も続けていきたいと考えていますが、留学中は本当に一番モチベーションが高かったと思います。

留学を通して英語学習のモチベーションは格段に上がったし、アルバイトで外国人のお客さんが来たら自信をもって声を掛けられるようになった。

留学前は勉強のモチベーションがなかったが、留学中は英語を使いたくてしかたなかった。

留学前よりも留学中、留学後の方がモチベーションは上がりました。留学中に英語が通じないことや理解できないこともあったので、この悔しい経験を元に、もっと英語を学習し、成長したいという気持ちは留学前よりも強くなりました。

留学前はいろんな国の人と色々なことを話すことをモチベーションにしてきました。留学中は留学後の自分の英語力の向上をモチベーションにしました。今は、次にカナダで出会った人に会うときに驚いてもらえるぐらい英語力を伸ばすことがモチベーションです。

留学中 100%力を振り絞った瞬間

コミュニケーションの授業で行ったディスカッションでは、自分の英語力を 100%振り絞ろうと努力できていたと思う。異なる国から集まったメンバーの中でリーダーとしてディスカッションを進めることのむずかしさを実感し、わかりやすい単語・適切な文法や発音を心がけた。ディスカッションがうまく進んだ時には、自分の英語に自信を持つことができ、100%の英語を振り絞ることができていると実感できた。

旅行やアクシデントの時です。頼る人がいない状況に立った時発揮されました。特に友達がアレルギーで倒れた時は通訳する必要があった

為 100%の力を出しました。
旅行中に携帯をバスに置き忘れたとき。
期末テストです。結果はあまり良くはなかったですが全力は尽くしました。
アイスホッケーの練習中に話しかけられたとき、周りもうるさいなか容赦ないスピードとスラッグの嵐で聞き取り返事するのに1番苦労した。
授業課題であるプレゼンテーションを作った時
授業で行われるプレゼンテーションで力を出したと思います。なぜなら、今までにこんなに長い時間、濃い内容でプレゼンテーションを行ったことがなかったからです。日本人以外の人の前で、自分の英語を伝えると言うのはとても緊張したし、伝わるか不安でしたが、精一杯準備をして当日に挑みました。
期末の最終プレゼンテーション。2つのプレゼンテーションを並行して準備を進めるのが凄く大変だった。
ホテルのチェックインの時、予約をしていたのにキャンセルされていると言われてトラブルになった時。
カナダから日本へ郵送を送った時。この時はホストマザーも忙しく、一人で郵便局へ行き、パッケージの種類や配送の仕方などすべて一人で対応しなければならなかったことです。普段聞きなれない単語を理解しながら、自分の要望も伝えることが出来たので良い経験になりました。
一番力を振り絞った習慣は初めての日本人以外の人と話すことです。私は、元から人見知りな人がすごいと自分の英語力に自信がないので自分から話しかけることを躊躇しますが、今回はこの減多にない機会だったのでいろんな人に話しかけました。

留学先大学の良かった点

なによりも大学のイベントの多さが一番の魅力だと思う。大学の居心地の良さも魅力的だと思う。アットホームな雰囲気がありすごく過ごしやすかった。さらに授業が午前と午後のため、お昼の時間で過ごすことができ、その時間で現地の大学生と話すなど有意義な時間だった。
先生が生徒の声をよく聞き周りをよく見てくれる事。
授業以外にも他の留学生や現地の大学生と交流する機会が多い。
大学の敷地が広大で3ヵ月たっても迷路みたいに探検できた。先生も他の留学生も現地の大学生もいい人だった。特に現地の大学生はまじめに勉強するときと遊ぶときのバランスのコントロールが上手だった。
施設が充実していて駅やジムがあったり、ウォータークーラーがあったりして快適でした。また先生方のフォローも厚くなんでも相談しやすい環境だったと思います。
イベントやボランティア活動がたくさんあり、友達を作りやすい環境だった。
アドバイザーの方がかなり気を配ってくださったので悩みを気軽に相談できた。
大学主催のイベントがほぼ毎日あり、充実した時間を過ごせた。また留学中に2回ほど面談があり、悩んでいることや困っていることなどを話す機会があったのが良かった。
大学にイベントや、ボランティア活動などが充実していて、先生たちも学生に対してとても親身になってくれることです。
それぞれの科目の先生が話を優しく聞いてくれて、わからないことは徹底的になくしたい自分にとってすごくいい環境だった。
寮住みではなかったけど、寮に住んでいる学生と仲良くなれたのはとても嬉しかったし楽しかったのでそこがいい点だと思う。
ストライキや学校内で事件が発生したときに迅速に対応してくれたところ。不安が残らないように、ケアサービスなどを行い生徒に寄り添ってくれたところ。
相談しやすい環境でした。カナダ滞在中2回一対一で先生と面談する機会がありました。勉強の面だけでなく生活面でも様々な面を相談することが出来ました。また、授業を担当して下さった先生も常に私たちを心配してくださいました。